

V 情報・資料

1 ソ連の新海洋測器

(出所: Soviet Oceanography Transactions of the Marine Hydrophysical Institute, Academy of Sciences of the U.S.S.R. Sixth Voyage of the Mikhail Lomonosov Vol. xxv, 1962)

ミハイル・ロモノゾフ号は1959年大西洋観測に海洋物理研究所で作った新測器を使用しているが、次の3つを紹介する。

- (1) バチサーモサリノグラフ (Bath thermo salinograph) は水深、水温、塩分をこれまでにない高い精度 (水温 0.015°C 、塩分 0.003%) で記録できる測器である。水温、塩分の平均値だけでなく、変りも記録する。海洋の水温及び電導度のオツシログラフの120m記録がとれる。(測器全長写真によると約1.3m)。
- (2) サーミスター・チエインとエレク・ロバチサーモグラフ・チエインは10mおきの10個のサーミスターから成る。サーミスターケーブルの末端に水深を測るピックアップがついて、シグナル転換と配分ユニット、シグナル記録の電位計より成る。このサーミスターチエインは5日周観測点で使用された。
- (3) 海面の水温を船の動く間に記録する2測器を潮境の熱構造や水平の温度不規則性を測定するため開発した。その一つは大きな時間定数及び 0.1°C 程度の低感度で、も一つは小さい 0.1 秒という時間定数で感度 0.03°C である。試作品を英仏海峡からカナリー諸島まで連続的に作動させた。

120m長の記録を得た。

(宇田道隆)

2 新水産調査船 TOWNSEND CROMWELL

1964年1月25日進水した本船はハワイの水産研究所々属、全長138フィート、幅33フィート、吃水下10フィート、総トン数565。400馬力ディーゼル2基、全速13.5ノット、巡航速12.5ノット、航続距離1万マイル。船型は変つていて、船首は丸く管状構造約10フィート長吃水線下方へ延びている。発明者東京大学乾博士の名をとつてイヌイ・バルブとよぶ、これが船首の造波抵抗をなくし、船の効率を増大する。又横揺防止タンクの一系を

具え、横運動の減衰と共に作業プラットフォームの安定度をよくしている。3補助機構で60KWの発電機を動かす。1500立方呎の冷凍室を標本用に設けてある。燃油4.3万ガロン、清水8900ガロンをもてる。レーダー、ロラン、2音響測深機(800^m/12000m用)をもちラジオ交信ができる。どんな天候でも海洋観測ができる。2ウインチは7000m、水理、プランクトン用、大型トロール4000m、ワイヤロープで中層から揚網。470平方呎を生物、化学、水理研究室と科学情報センター(図書、資料とし、自記録計等)にあてている。船首に特別水中観測窓もつくつてあり、マグロなどの飼養実験室もある。中層トロール、刺網、延縄などやれる用意あり。船員13名(漁夫3名を含む)、科学者10名の室がある。工費170万ドル。

ワシントン大学にT.G.Thompson号、オレゴン大学にY A Q U I N A号等新観測船が続々登場、故ケネディ大統領が、1961年3月29日“新しい船と海岸施設は科学的研究に不可欠な道具だが、地球の内部空間域の新知识を生み、海洋の新用途を与える”ことを述べた通りである。

船名の Townsend Cromwell(1922-1958)は赤道太平洋の水産海洋学を開拓した功労者の名をとつたものである。彼は、ハワイのP O F I(太平洋海洋漁業調査部)で1949-53年 O.E.Sette 所長の下で海洋調査に従事し、Hugh M.Smith号で観測中、赤道湧昇を確証、赤道反流北界での湧昇出現に反対、1952年赤道潜流を発見(後に彼の名をとつて Cromwell Current)、赤道帯の風成海流輸送モデルをつくつた。彼は後に汎米熱帯鯨委員会(IATTC)とスクリプス海洋研究員となつて、海洋観測に出かける途中1958年6月2日飛行機墜落事故で死んだ。海洋物理環境と漁業との関係について、Doming, Ridging, 水温躍層など数々の業績を残した。(宇田道隆)

3 オーストラリア水産海洋ニュース

(出所: Annual Report 1962-63.

Division of Fisheries & Oceanography, CSIRO,
Australia, 1963)

豪州近海のマグロ類が詳査されている。この年 New South Wales 海岸で陸揚108400尾中6671尾(6.2%)計測、豪州南岸で5%の12533尾計測、胃と精巢も収集。標識放流9000尾のうち8000は Albany 水域で放流、1300は豪州南岸水域で、372尾は New South Wales 水域の Marelda から放流。南西豪州の魚が南豪州へ動くこと。ニューサウスウェールズ州の魚が南豪州水域へ泳ぐことを確かめた(再捕率5%位)